【事業名】沖縄県内に生育する国内希少野生動植物種の生息域外保全（沖縄県全域）　【団体名】一般財団法人沖縄美ら島財団

令和２年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

・沖縄県内には数多くの希少な植物が生育しており、その多くが国内希少野生動植物種に指定されている。しかしながらこれら多くの種類について生息域外保全を目的とした栽培や種子保存がなされておらず、またそもそもの個体数が少ないため、その保全上問題が指摘されている。これらの課題を解決するため、種子保存をはじめとした生息域外保全を実施することした。

オキナワテンナンショウ

事業の内容

・沖縄県内に生育する国内希少野生動植物種の種子（胞子）を採取し、種子（胞子）の保存方法、栽培方法の検討を重ね、多角的な生息域外保全を推進する。

事業①　種子採集事業
・国内希少野生動植物種の種子（胞子）の採集
・自生地環境調査
・フェノロジー調査

自生地環境調査の様子

事業②　種子保存事業
・低温（－20℃）、超低温（－150℃以下）での保存を実施
・シダ植物の胞子については、－70℃（国立科学博物館）での保存も実施
・可能な限り保存前後での発芽試験を実施し、種子保存特性を明らかにする

事業③　栽培方法の確立
・種子保存を行った種類の発芽試験を実施し、発芽したものについて栽培方法の検討を行う
・栽培株がある場合は、栽培マニュアル作成を目指し、栽培方法の検討を重ねる

得られた成果

・オキナワテンナンショウ、ヨナクニトキホコリ、ヨナグニイソノギク、リュウキュウキンモウワラビ、ハカマウラボシの５種について現地調査を実施、野外での生育状況の確認、種子の採取を試みた。その結果、ヨナクニトキホコリ、ハカマウラボシを除く３種について、野生株から種子が採取できた。また、ハカマウラボシについて、栽培株から胞子が採集できた。

・オキナワテンナンショウとヨナグニイソノギクについて、播種・栽培による生息域外保全を実施した。その結果、オキナワテンナンショウは10株、ヨナグニイソノギクは25株の域外保全株の獲得に成功した。また、栽培に関する基本的な知見を得た。

育成中のヨナグニイソノギクの状況